

幼稚園に於ける所謂共 同的遊戯に就いて

和田 實

普通幼稚園などで共同の遊戯と云つて居るところのものは小學校令施行規則中幼稚園の部に明記してある所謂歌曲に合はした動作を云ふので幼稚園が主として行ふ所から之を幼稚園遊戯とも唱へて居るし又其性質として唱歌を結合することが多い爲めに特に唱歌遊戯とも稱へられて居る。是は従来の幼兒教育法中では非常に重要視されたもので幼稚園の四大特技の一とせられて居るのであるが、併し其教育的價値に就いては吾人大に疑ひなき能はずである。元來幼兒の依て以て發達し來る處の遊戯の種類と云ふものは實に左表に示す様な頗る多方の遊戯より成り立つものである。

一 經驗的遊戯

甲 直觀的のもの

乙 表象的のもの

觀察 實驗
聽話

二 模倣的遊戯

三 練習的遊戯

甲 身體的のもの

乙 精神的のもの

丙 技術的のもの

イ 言語的のもの

ロ 技能的のもの

ハ、生産的のもの

甲 記憶的のもの
まゝごと。
乙 想像的のもの
しばいごと。

運動。

考物の類

唱歌等。

毬つき。

手工の類

而して所謂唱歌遊戯と云ふものは吾人の所謂練習的遊戯中の「運動」と名くる種類のの中に當然包含せらるべきもので而も運動類の主要部ではないのである。して見ると何れも此唱歌遊戯ばかりが盛んに行はれたからとして幼兒教育上に何れ程の効驗があるらうか、無論全く効驗のないことはないに相違ないが併し従来の幼稚園が此種の遊戯を特に重んじた程に有効なものであらうか吾人は頗る疑はざるを得ない。或人などは「コンナことをさせて發達もなにもあつたものではない」と憤慨して居る人もあるが今後の幼兒教育法は此點に於て大に反省

する所かなければならぬ。

元來此唱歌遊戯は一般に温雅なもので且一齊に行ふことが出来るので幼稚園の様な多数の子供を集めた處では誠に都合のよいものであるが併し幼児の体力と其興味とを充分に發現せしむることに於ては常に不足の場合が多いのは室内の唱歌遊戯として是非ない次第である。幼児の能力増大と云ふことを目的の一とする論者の側から見ると之は甚だ面白くないもので一部の人士の憤慨するのにも無理のない譯である。けれども是は餘りな極端論である。吾人は皆夫れ／＼相當の價值あるものと認めて居る、要は之を以て遊戯の本領であるかの如く心得ることを止めねばならぬ丈である。尙又現在の幼稚園などで行ふて居る所謂唱歌遊戯中には吾人の認めて全然遊戯でないと思ふものがある。彼禮の遊など云ふのは其一例である。此遊戯は吾人の參觀せる幼稚園では多くの處で行ふて居つた。けれども吾人は何うしても遊戯とは思へぬ確かに一種の勤勞であると思ふ。吾人は斯の如き興味なく且精神なき遊びに依りて禮を教へんよ

りは寧ろ「まゝごと」を獎勵することに依つて禮を教ゆる方が尤も具体的で然も精神的であると思ふ。此他にもまだ之に類するものがある様である。それから又唱歌遊戯は自然の結果遂に嚴重な一齊的のものとなつて居る。是は頗る不合理なものであると思ふ。何故と云ふに一組の子供の中には或遊びには何等の興味もないと云ふものが必ずある筈である。而して斯る子供迄を壓制すると云ふことはそれが幼児の我儘を矯めると云ふ特別の場合の外は何等の根據もない非教育的な事である遊戯は決して強迫す可きものでない。強迫す可きは遊戯ではない。今後の幼児教育は此點に就ても改良しなければならぬ。

又從來の幼稚園遊戯では遊戯の形式が美しく行へると云ふことを誇りとして圓形に並ぶとすれば幾何の圓形の様に正しく圓く、一列に並ぶとか進行すると云へば一直線に軍隊的になるのを宜として居る。其程度が吾人は幼児教育の範圍を通り越して過ぎて居る様に思ふ。一体に今の幼稚園は子供を美しくすると云ふことには熱心に過ぎて居る

幼児は決して美術品ではなく飾つて眺めるものでもない。生きて居る動物で然も最も我儘な代物である。而して此天真は必要ならざる限りは妄りに規制す可きものでないとは教育上大切なことである。故に幼稚園の唱歌遊戯は決して參觀者の爲めに美しきダンスを見せるために行ふものではないのである。幼児を斯様に玩弄するのは一つは父兄や教育者の楽しみであらうが彼等幼児等は何等教育的價値あるものではない。それから又唱歌遊戯には何かと色々な規律がある。此規律が外觀をよくするために多くは度に過ぎて居る。是は何うしても或程度迄で我慢しなければなるまい。其程度と云ふのは何處であるかと云ふと其團體的共同の遊戯の成り立つために必要な其限度である。此必要な度を通り越して迄も規律を八ヶ釜敷云ふのは理由のないものである。
 要するに現在處々の幼稚園に於て行ふて居る所の共同遊戯若しくは唱歌遊戯と云ふものは其外延を今少し縮少しなければならぬ筈のものであるから今後の保育者は注意して其窮屈な範圍を脱し閉ち

られた遊戯室から出て自由な多方面の發達を心掛く可きである。

獨逸小學生徒の自殺

獨逸の小學生に自殺者多きは近來同國の一問題となりつゝあり

今之を同國の統計に徴するに、一八八〇年より一九〇三年までの十四年間に於ける小學生自殺者總數は千百五十二人に於て、男兒と女兒との割合は前者四に對する後者一なり、而して自殺の原因は處罰を恐れたる者三五三十五、精神錯亂七十、飲酒及び其他の不節制六十八、他はニイチエ若しくはシヨーベンハウエル等の著書を讀みたるが爲め厭世、絶望、或は失戀に陥りたる者にして、苛酷なる家庭若しくは學校教育及び不健全なる讀書は確に自殺の最大因たるを證す
 我邦に於ける近來流行の自殺に關しては、未だ正確なる統計を得る能はざるも、獨逸の此統計は參考となすに足るが如し、我當事者も亦速かに此の如き統計を發表するとあらば自殺を防ぐに莫大なる効果を奏するは疑を入れざるなり